



さい帯血バンク NOW

第37号

2007年9月15日発行

日本さい帯血バンクネットワーク

発行者：鎌田薫（会長）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階

TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417

<http://www.j-cord.gr.jp/>

全国大会を札幌で開催

さい帯血バンク関係者が参集

日本さい帯血バンクネットワークは9月1日午後、札幌市のウェルシティ札幌で「2007年 札幌発 さい帯血バンク推進全国大会」を開催しました。すでに恒例となった全国大会ですが、全国からさい帯血バンク関係者が出席するとともに、地元札幌のみならず「へその町」富良野など北海道各地からの一般参加者などあわせて120名ほどの出席者で会場は熱気につつまれました。

札幌でのさい帯血バンク推進全国大会は、まず日本さい帯血バンクネットワークの鎌田薫会長が主催者を代表して挨拶し、日本さい帯血バンクネットワークは発足から8年目を迎え、この7月までに3906例の非血縁者間さい帯血移植を実施して順調に推移している

ことを報告しました。続いて、来賓として厚生労働省、日本赤十字社、支援ボランティアの会、骨髄バンクとそのボランティアの代表から挨拶がありました。

藤俊一委員長が「さい帯血バンクの移植成績」を報告しました。この最新の成績データは、近くホームページでも公開されることになっています。

事業報告と移植成績

この全国大会は日本さい帯血バンクネットワークの年次報告会を兼ねています。次には「さい帯血バンクの事業報告」として野村正満事業運営委員長が現況と課題として、より多いさい帯血の保存への取り組みや複数さい帯血同時移植などについて報告しました。さらに、移植データ管理小委員会の加

北海道と宮城の取り組み

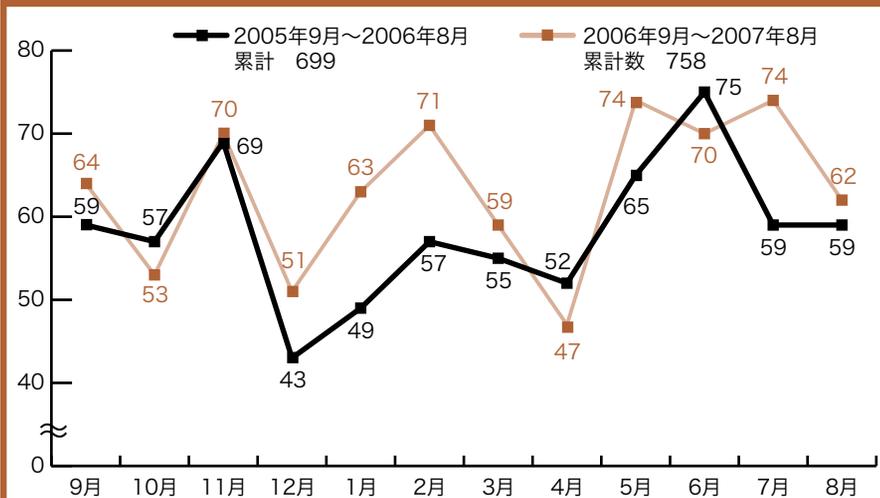
続いては「さい帯血バンク2つの現場からの報告」が行われました。今年はず、地元から「北海道臍帯血バンクのあゆみ ～より安全で効果的な臍帯血バンクをめざして～」が茂木祐子さんからありました。さい帯血が注目され出した早い時期からの取り組みと機材類の独自開発など興味深い報告でした。そして「NPO法人宮城さい帯血バンクにおける活動報告」と題して峯岸正好さんが、ビデオを使用してさい帯血の分離調製の手技などを紹介しました。さい帯血の技術的な取り扱いには関係のない参加者たちからは「ビデオでよくわかりました」との感想が聞かれました。さらに休憩をはさんでシンポジウムが行われました。



挨拶する鎌田会長

非血縁間さい帯血移植状況(2007年8月31日現在の速報値)

移植数 (累計) **3969** 公開数 **27830**



報告する茂木さん(北海道・左)と峯岸さん(宮城・右)



シンポジウムでは大きな感動

さい帯血移植患者さん4人を囲んで

「2007年 札幌発 さい帯血バンク推進全国大会」の第2部は「ありがとう」“移植患者を囲んで”と題してのシンポジウムがありました。

このために日本さい帯血バンクネットワークでは本誌などを通じて、これまでにさい帯血移植をして社会復帰された患者さんを公募しました。全国から応募された方の中から、今回は4名のさい帯血移植経験者を札幌にお招きして、このシンポジウムにパネリストとして出席していただきました。石黒ようこさん、ごんぞうさん、袖山洋子さん、広部伸一さんの4名は、いずれも病気の再発を経験され、再移植を経験した方も多く、相当にシビアな闘病

を体験された方ばかりでした。そのつらい状況を生き抜いて、今では元気な姿を披露して、患者としての貴重な提言とともに、さい帯血を提供くださったお母さんやさい帯血バンク関係者のみなさんに感謝の言葉を語っていました。

ほかにパネリストにはいつもさい帯血を採取している産科の医師として、札幌マタニティ・ウイメンズホスピタルの横尾洋一副院長、移植医としていつも子どもの患者さんと接している札幌北楡病院小児科の小林良二医師、北海道臍帯血バンクの茂木さんもそれぞれの立場から発言しました。横尾さんはこれからも移植に役立てるように、

細胞数の多いさい帯血を採取していきたいと意欲を語りました。小林さんは患者さんたちの意見や提言に耳を傾け、茂木さんはさい帯血バンクの仕事をしながら、いつも患者さんの顔を見ることができないのでと語っていました。

また、全国から集まったさい帯血バンクの関係者は、誰もが大きく感動したと感想を述べました。さい帯血採取病院の助産師は「病院勤務とはいえ白血病患者さんとは接したことがないので、いいお話が聞けました。またこういう機会を作ってほしい」と、シンポジウム後に開催された懇親会の席で語っていました。



会場受付で



司会は事業運営委員の谷口修一さんと佐藤ときえさん(左)



懇親会で



北海道さい帯血バンクのみなさん、ご協力ありがとうございました。



さい帯血移植患者さんの手記

ありがとう

石黒ようこ



19歳の夏。学校にアルバイトにと、忙しいけれど充実していた毎日。就職が決まってから

の学校での話題は、毎日飽きることなく無限に広がるキラキラ光る未来の話。社会に出て、恋をして、結婚をして、子供は3人ほしいかなあ……なんて。そんな楽しい夏は、人生は初の入院で、あっという間に終わってしまった。

風邪薬をもらいに行っただけの夜間外来で、突然告げられた病名は白血病でした。先生は、病院に連れてきてくれた母と私に一生懸命説明してくれたけれど「……白血病……今夜から入院……」

明日の学校は？ がんばって内定をとった就職は？ 風邪でボーっとした頭が真っ白になりました。

抗がん剤治療をしながら入退院を繰り返して、発病から3年後、さい帯血移植を経て無事に退院しました。就職もして、毎日楽しく平穏無事な生活をしていました。しかし、一昨年

月に再発がわかり再び入院。なかなか上がらない血液検査のデータに、不安をかかえながらも、4回の抗がん剤治療の後に、人生2度目のさい帯血移植を経て、再び無事に退院をむかえることができました。今は職場復帰し、元気に普通の生活をしています♪。

普通に元気に生活ができるということが幸せ。ちょっと嬉しかったことがあると、夜寝る前に布団の中でしみじみ思う幸せな時間があります。おいしいものを食べて、仕事をして、残業しているときも、毎日が楽しい。

2度もさい帯血移植をしたなんて、誰も想像できないくらい“普通”の毎日です。さい帯血から多くの幸せをもたらした私は、普通以上の幸せを手にする力を持っているのかもしれない。

たくさんの方に支えられて、さい帯血移植を受けることができました。た

くさんの愛の中で、元気になることができました。2度もお世話になったさい帯血を通して、深いやさしさにふれることができました。

私の体の中には、3人のお母さんの愛が流れています。私のお母さんと、初めての移植の時と、2度目の移植の時にさい帯血を提供してくれたお母さん。さい帯血からたくさんの幸せを分けてもらって、私の体には毎日幸せが流れています。

へその緒……お母さんのおへそと赤ちゃんを結ぶ大事な絆。

さい帯血。温かい心と私を結ぶ幸せの絆。

ありがとう、お母さん。ありがとう、赤ちゃん。ありがとう、みんな。

ありがとう。



札幌全国大会のシンポジウムには事前に手記を寄せていただき4人のさい帯血移植体験者にパネリストとしてご出席いただきました。その手記を今号から順次「さい帯血バンクNOW」に掲載させていただくことになりました。なお、掲載にあたっては誌面の都合などにより、原文に手を加えるなど編集させていただいております。



すこやかに、幸せに。
明日への夢、描きたい。

NIPRO

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



さい帯血バンク 道具箱

⑩ 広範囲温度データロガー

“おんどとり”羽ばたく!

鳥でも音頭でもない

「おんどとり」は、温度と湿度を測定する装置の商品名です。鳥の種類でも盆踊りの音頭とりでもありません。さい帯血バンクから、移植に適合したさい帯血を、全国の移植病院に入院している患者さんの元に届けるために、輸送中の温度を「おんどとり」は常に測定します。

さい帯血は-196℃で凍結保存しています。移植が必要になった患者さんが入院している病院に、さい帯血をお届けする場合は、-196℃に保てる専用の容器に入れ、凍結状態で運びます。もし、途中でさい帯血が溶けてしまっていたら、さい帯血の細胞が死んでしまい、患者さんの体に、あってはならない事態が起きます。ですから「おんどとり」が輸送中、しっかりと温度を測定しているわけです。

温度の監視役

移植用のさい帯血がさい帯血バンクを出発するときに、専用の容器に付けた「おんどとり」のスイッチをONします。移植を待つ患者さんがいる移植病院まで「おんどとり」はじっと温度を測定し続けます。受取った移植

病院の先生は「おんどとり」のセンサー表示してある温度を確認後に、さい帯血を病院の液体窒素タンクに移し替えます。それから、移植病院の先生は「おんどとり」が付いた容器をさい帯血バンクに返送します。さい帯血バンクでは返送された「おんどとり」のデータをパソコンで取り出し、輸送中の温度に問題がなかったかどうかを確認します。

動いていない!?

ある時、-196℃に保てる大きなさい帯血運搬容器で、さい帯血を移植病院に運びました。患者さんへの移植前日に移植主治医の先生が「おんどとり」の温度を確認したら、「おんどとり」

の温度が表示されてないと勘違いして、「おんどとり」が動いていない!」って、真夜中に電話がかかってきました。「おんどとり」が動いていないから中のさい帯血はきっと死んでいる!」って。でも、大丈夫! スタッフの連携プレーと説明で「おんどとり」はちゃんと生きていて、温度をとり続けていたことが確認できました。運搬用の容器の中の大切なさい帯血を守っていたのです。患者さんは無事に移植することができました。ですから「おんどとり」はさい帯血バンクではもっとも重要な器具の一つです。

「おんどとり」の測定器は、さい帯血バンクだけではなく、理科の実験や山岳の天気測定、チーズやハムを作る際にも利用されているそうです。

「おんどとり」はさい帯血バンクからさい帯血を移植病院に運ぶために、今日も全国に羽ばたいています。

■善意のお気持ちに感謝します■

兵庫県	杉本敦子様	99,850円
長崎県	松本智子様	50,000円
長崎県	松本博様	50,000円
東京都	松本翔次郎様	10,000円
静岡県	豊田龍二様	10,000円
神奈川県	石綿照明様	10,000円
神奈川県	佐々木大輔様	5,000円
南魚沼・音楽とゴールドリボンの会		5,000円
岩手県	遠藤律枝様	5,000円
鹿児島県	吉本由有子様	3,000円

〈寄付受け付け専用口座〉

郵便振替口座番号：00180-9-57390

口座名義：日本さい帯血バンクネット

ワーク



おんどとりTR-81 (ティアンドデイ社製)